



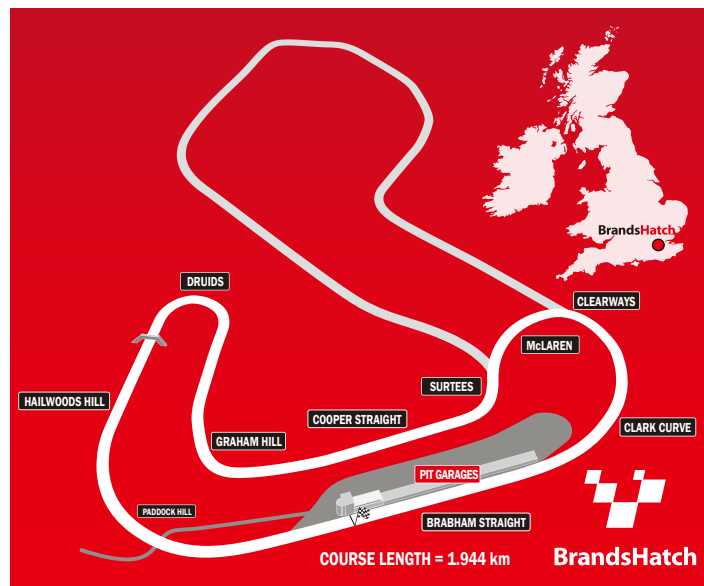
終始安定した走りを見せた NICK PADMORE が勝利。

ヒストリック
レースドライバー

6月28日(日) ブランズハッチのスターティンググリッドに21台のヒストリックレーシングミニが帰って来た。16:46、オールレッドシグナルと共に『2015 三和トロフィー決勝』の幕が切って落とされた。

ポールポジションは、レーシングドライバーの Nick Padmore (#92)、2番手は Swiftune ワークスカーの Phil Anning (#76)、続いて Ade Barwick (#10)、そしてご存知 Bill Sollis (#80)と強豪がひしめく中、2番手の Anning がフライング気味ではあったが、そのまま無事にスタート。レーシングカーとは思えぬ美しいボディのMK1クーパースが全開で第一コーナーに飛び込んでいく。先頭をキープしたまま Padmore が3周目に早くも 58'331 のファーステストラップを出し、徐々に差を広げていく。着実に順位を上げていったのは Sollis で、6周目に早くも2位に浮上。その直後、Hawcroft (#54) のコースアウトでセーフティカーが入るもピットインにはまだ早いため、各車とも再度順位を成しタイヤを温める。

10周を終えセーフティカーが抜けた直後を狙っていたのは Sollis。透かさずホームストレートを猛然と加速、第1コーナーで何なく1位に躍り出た。隙を突かれた Padmore は Druids へアピンをサイドバイサイドで食い下がるが Sollis が抑え込む。その後も後ろから接触せんばかりに猛烈にプッシュ。抜きつ抜かれつバトルで観客は総立ち状態。最初に動いたのは2位を走る Padmore。15周目にピットインして、規定の1分ピットストップをクリア。続いて Barwick (#10) も元F1ドライバーの Mike Wilds にチェンジ。16周目には1位の Sollis、3位の Anning と続々とトップチームがピットイン。21位から6位までジャンプアップした Jonathan Lewis (#1) はエンジントラブルで惜しくもリタイヤ。中盤を終え、絶妙のドライバーチェンジで1位に躍り出た



GTドライバーの Bradley Ellis (#76)。しかし、速さに勝る Padmore (#92) が背後に迫る。仕掛けたのは26周目、最終コーナーでトップを奪回。その後は2位を徐々に引き離して周回を重ねていく。猛烈な追い上げを見せた BTCC ドライバーの Mat Jackson (#13) が4位に浮上。William Ward (#57) はペナルティのためピットインで4位争いを離脱。ラスト6周は5、6位と7、8位争いの壮絶なバトルを繰り広げ再び観客を沸かせた。

そして、トップを譲った後も冷静にピットインを先行しレース全体の主導権を手にした Nick Padmore が2015年三和トロフィー耐久レースを制したのであった。熱い闘いが終わって、観客は総立ちで全車に惜しめない拍手を送っていた。終わってみれば、1、2、3位はスターティンググリッド順と同じ。ピットインのタイミングが勝敗を決めると言っても過言でない耐久レース、各チームの探り合いが見応えあるレースであった。

2015 Sanwa Trophy - Lap Chart

Weather / Track : Cloudy / Dry

